

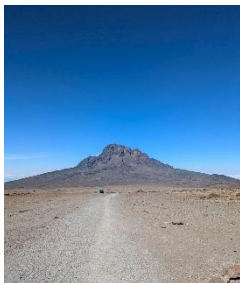
パモジャ PAMOJA



第38号
青年海外協力隊 巢守 世那
2026年 7月7日発行

キリマンジャロ 4日目～6日目

4日目は、4700mのキボハットという山小屋まで登るのですが、果てしなく長い道のりと目の前にそびえ立つキリマンジャロの迫力に圧倒されながら進みました。この日から高山病との闘いが始まりましたが、まるで火星にいるかのような景色と、BTSの曲が私を励ましてくれました。



高山砂漠地帯 約4000m～5000m

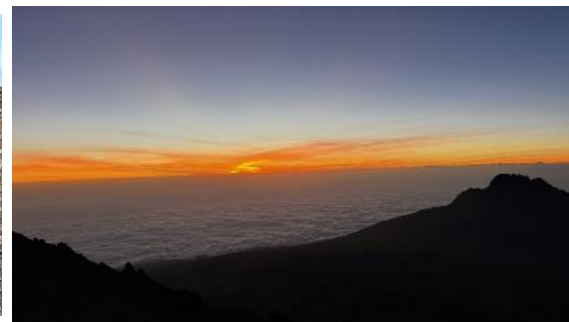
空気が乾燥し、太陽が出ていない時間がとても寒いので大きな植物が生き残れなくなり、茶色い砂と岩だけに。時々、地面に張り付いている花が見られることもあります。

氷河・極地帯 約5000m～

植物が育つ限界を超えた完全に氷と岩だけの世界に。赤道が近くにあるにもかかわらず、氷河が見られます。

そして5日目にあたる夜12時にアタック開始です。アタックの日は、どこを見渡しても星!星!と星が一面にキラキラと輝いていました。真っ暗なので足元をしっかりと照らして歩かないといけないのに、あまりにもきれいなので空を見上げながら歩いていたらいガイドに注意されてしまいました。暗かったのでどんな道を歩いているのかわからなかったのですが、明るくなって見てびっくり!ほとんど崖でした。歩いているときは、3歩歩いたら止まって息を整えて、また歩くの連続で途中眠すぎて夢を見てガイドに「起きろ～」と何度も起こされました。本当に進んでいるのかわからないくらい頂上がまだ先に見えました。体も動かなくなってきていましたが、ガイドに支えられ、何とか這いつくばりながら登りました。この経験は一生忘れないと思います。

(写真はつらすぎてとる余裕もありませんでした。)



氷河

数十年後にはなくなってしまうとされています。

下山もつらくてつらすぎましたが、美しすぎる景色と楽しい仲間たちのおかげで、本当に登ってよかった!と心から思います。Asante sana!

